

※現段階での条件を元に検討した内容のため、今後、変更する場合があります

凡例
■：庁舎 ■：公民館機能拡充施設 ■：共用部

		A 案		B 案		C 案	
配置イメージ							
■ 重みづけ評価 庁舎・公民館の建替え計画について、 ◎○△の3段階評価で重要度をご記入 ください							
建物面積		新築面積：11,000 m ² + 公民館解体：2,500 m ²		新築面積：8,500 ～ 10,000 m ² （新庁舎・公民館一体による面積の合理化） + 公民館解体：2,500 m ²		新築面積：6,000 ～ 7,500 m ² （新庁舎・一部の公民館一体による面積の合理化） + 公民館改修：2,500 m ² = 8,500 ～ 10,000 m ²	
① 建替え時の影響		○	庁舎、公民館とも使いながらの建替えが可能。ただし、既存庁舎の解体後、公民館の着工となるため、公民館の完成が遅れる	◎	庁舎、公民館とも使いながらの建替えが可能であり、同時に完成できる	○	庁舎、公民館とも使いながらの建替えが可能。ただし、既存公民館の改修工事が発生するため、改修中は既存公民館（2,500 m ² 分）が利用できない。一方、新築部公民館機能 1,500 m ² 分は新庁舎と同時に完成するため、その部分については利用できる
② 脱炭素社会への貢献度		△	新築の面積が最も大きく（新庁舎・公民館 11,000 m ² ）、また、既存公民館を解体するため、CO2 排出量が最も多い	△	新庁舎・公民館 10,000 m ² 全てを新築し、また、既存公民館を解体するため、CO2 排出量は多い。ただし、A 案と比べると新築面積が小さい分、CO2 排出量はやや少ない	◎	既存公民館 2,500 m ² の構造体分の新築・解体工事を削減できるため、CO2 排出量を抑制できる
1.CO2 排出量				○	A と同じ	○	A と同じ
2. 炭素の固定化		○	新築の一部に木造を採用することで炭素の固定化が可能	○	A と同じ	○	A と同じ
③ イニシャルコスト指数 （当初の基本設計時を100として面積換算）		△	88	○	72 ～ 80（建築面積による）	◎	67 ～ 76（建築面積による）
④ ライフサイクルコスト指数 （A 案を100として算出）		△	100	○	79 ～ 91（建築面積による）	○	78 ～ 91（建築面積による）
⑤ 町としての検討の優先度		低		高		高	

自由記述欄